

※この記事は、「講演会の参考資料」として通行屋の関連資料等を検索して保存会で編集・発行したものであります。

## 1. 簾舞の「通行屋(家)」について

定山溪への途中、豊平川の段丘と背後に山々が迫り自然盆地の簾舞地区は一部を除き、かつて水田・畑そして果樹園があり農業が主要産業だった事を忘れ去るような変貌で住宅地化されました。アイヌ語で「ニセイオマップ(断崖絶壁の所にある川)」、明治5年に漢字の「簾舞」となり、その後和人が訛って「ミノマップ」と呼んでいました。前々の3年7月現在の伊達市西長流で起工した「本願寺街道」は、千辛万苦の中に一条の道を札幌平岸まで開削し翌4年10月に完成しました。この前月の22日開拓使の坂本義廣少主典と使掌高見沢権之丞一行が道を検分の時



「簾舞通行屋」黒岩卯太郎の家族(明40)

本府と定山溪間に宿泊と休憩場所の設置を唱え、即刻建築に取り掛かり翌5年1月開設となった小休所が「通行屋」であります。以後、開拓使の庇護の中に屋守(管理人)黒岩清五郎一家は使庁から給金を得ていたものの孤立無援の中で、廃止となった17年までの12年間に業務に精励しました。

## 2. 本願寺街道(別号・有珠新道)について

安政5年冬に蝦夷御用御雇の松浦武四郎が、豊平川を下った際に「この川に沿い道を開かばその弁理、如何許りならん」と唱え、後に北海道開拓の官許を得た東本願寺大谷派の大谷光瑩(現如上人)一行が、尾去別から壮瞥、ニッポキナイ、ヌキベツ、尻別、カシュフ、ムイナイシケレベツ、定山溪、簾舞、平岸に至る26里10町を開墾し橋を架すること113、溪谷に横板を敷設17と道幅9尺(2.7m)、伐木幅3間(5.5m)の道路であったが1年4ヶ月の早さで完成、総工費1万8千両・延人員5万5,300人余がかかったと記録に残されています。現在の国道230



「高見沢権之丞の有珠新道絵図」号線の前身で、難所もあるが南斜面で雪解けも早い場所を選んだ先人の眼力に技術者も敬服した。

## 3. 通行屋の創建場所と街道

明治20年に現在の旧国道が完成した。まもなく通行屋も曳き屋移築・増築され、まだ宿屋としても集客が無い状況なので増築部を主業の「農家」とし



また、通行屋だった部分は「宿屋」として副業を兼ねて生活を始めました。写真は、昭和5年に団山から南方角を撮影したもので点線が本願寺街道で、○印が旧所在地ここから実線を曳き屋し現在地△印に移築しました。現在の国道230号線は右側の小高い山(二星岱)北側を通り、あとは現道とまったく変わりなく道路が作られています。

## 4. 明治初期札幌付近の通行屋や駅通所など

明治初期の駅通制度化される前に開拓使は定山溪・篠路・対雁・輪厚に休泊所そして簾舞・厚別・三樽別に小休所を設置。後れて駅通所が島松と定山溪に設置されています。この時代交通や駅通関係の制度が次々に改正されて、主旨や名称等にしばしば混乱が見受けられます。(休泊所と小休所の名称は開拓使事業報告による)通行屋は従前から宿泊と人馬の継立を行ったり、休憩をとる大切な施設でもあった簾舞は本府と定山溪間



凡そ7里(28km)を1日の道程で、その中間4里半(18km)に位置し、当初利用者が多かったが、明治6年に「札幌本道」が開通後は旅客が激減した。

## 5. 通行屋・建物の特徴

A. 札幌で建築された現存最古の建物  
通行屋や駅通所等としては、札幌にあった建物の中で唯一現存(旧棟部)するもので、また本州から移築され復元された八窓庵や東本願寺「旧本堂」を除けば、市内で建築された現存最古であるばかりでなく、開拓使が建築した和洋折衷で日本人の手にかかるものと思われるが、お雇い外国人の意見を取り入れながら寒地に適応させるべく思考錯誤を窺わせる。しかし後の屯田兵屋に見られる桁屋根や土壁は、通行屋では既に採用され市中の一般家屋や役宅で見られる石置屋根と違い、建坪24.5坪・建築費527円33銭からしても小規模ながら立派な建物だったことが裏付けられる。

### 札幌古建築

札幌市以外で建築され移築されたもの



国重文・八窓庵(旧本願寺) 江戸時代初期ころ 大正8年道庁長官長浜市より移築



東本願寺別院旧本堂(越後國中津原郡横越村の「光円寺旧本堂」を明治4年に解体移築)

写真「札幌の文化財」より

札幌市・開拓使による建築

「真東小屋組(キングポスト・トラス)群」



市指定・旧高岩家住宅(旧簾舞通行屋) 明治5年 旧棟部は札幌で建築された現存最古の建物



国史蹟・豊平屯田兵村兵屋跡(兵屋) 明治8年



国重文・豊平館 明治13年

「開拓使工業局建築」

「開柱構造(バルーン・フレーム)群」



国重文・開拓使工業局 明治10年



国重文・北海道大学農学部(旧東北帝国大学農科大学)第二農場 明治10年ほか



国重文・旧札幌農学校演武場(時計台) 明治11年

### B. 洋風小屋組み(キングポスト・トラス)の採用

開拓使工業局営繕課の建築(設)に代表される洋風工法の一つが、真東小屋組(キングポスト・トラス)の豊平館など...もう一つが間柱構造(バルーン・フレーム)の時計台などで、その5年余前に簾舞の通行屋に「トラス」が採用されていたことは注目に値する。また建築期間が明治4年9月から翌5年1月の降雪時での短期工事は本府で資材を切込してから、現地へ運搬して組立をしたのではないかと推測できる。

